

日本人の同性カップルと養子縁組

オリビア・プラウマン

1. はじめに

何数年前、日本で同性結婚がないので、同姓カップルは相続権などを得るため時々普通養子縁組を使わざるを得ないという話を聞いた。そのことにびっくりさせられた私は信じられないほど「嘘だ」と思ってしまい、日本語にあまり自信も経験値もなかったため、それについて勉強することができず、そのことを忘れた。しかし、その噂は本当かどうかずっと知らない私が最近、友だちと日本のファミリーホームについて話し合ったので、同姓カップルの普通養子縁組のことを思い出した。今回、絶対に深く理解しようと思っている。

アメリカでは「養子縁組」と言えば、大体人々が親子関係のことを考える。大人の単独でも、大人の夫婦でも未成年を養うことができる。アメリカでよくある話は同姓カップルが赤ん坊を養うことだ。その上、大人も養うことができる。例えば、まあまあ珍しい感じですが、大人の繼子を養う話もあるくらいだ。だからこそ、アメリカ人である私は日本の同姓カップルがパートナーを養うことにびっくりさせられた。結局アメリカには同性結婚が法律上であるので、現在の同性カップルが大人養子縁組について考えることの必要はない。

この論文に、4つの議論を調べようと思っている。まず、（1）日本人のLGBTの人々はどのような生活をしているのか？そして、（2）「特別」養子縁組と「普通」養子縁組の違いと日本人のLGBTの人々との関係は何か、（3）日本人のLGBT人々がなぜ普通養子縁組を使い、それにどのような是非があるか、の三つの疑問に答えようと思っている。最後に、（4）他の選択肢と進む道などを述べたいと思っている。

2. LGBTQAの日本人はどのような生活するか

日本の歴史には、様々なゲイに恋人がいた（残念ながら、家父長制である国なので、レズビアンについて史料などがあまりない）。キリスト教が日本にあまり力を持っていないので、一般的に欧米の同性愛者と違って日本の同性愛者は宗教的な罪悪感を持っておらず、同性愛禁止法でターゲットにされていない¹。実は、日本の同性愛のコミュニティにはアドバイスをあげたり、「ファンタジー」を交換したりするゲイとレズビアンのそれぞれの雑誌も²、同性愛者と会うことができるゲイバーもある。歌舞伎と宝塚歌劇団のようなクロスジェンダー・パフォーマンスも、バラエティーショーなどに出る同性愛者も見ることができる³。

外から見ると、同性結婚のこと以外、日本は同性愛者の天国だ。しかし、実際のところは、様々な調査によると、同性結婚に賛成する日本人は少ない。なぜなら、外からよくわからない「大人しいホモフォビア」が存在しているからだ。つまり、同姓恋愛に反対する人は「そと」で自分の意見を強く言わないので。マイノリティが出ている番組や劇は「うち」ではないし、自分の生活や日本の社会を変わることができないので、楽しむことが大丈夫だ。日本社会には、結婚してから子供を産んで育てることがとても大切だ⁴。特に男子は結婚できるまで、本物の大人ではないので⁵、同性愛者が自分のセクシュアリティを自分と「別」に分ける。例えば、よくゲイバーに行く同性愛者はその場所を楽しんでから、家族に帰ると、またその「自分」を捨てる⁶。

「うちホモフォビア」も主な影響である。特に男子にとって、家族の名を継ぐため、カミングアウトすることは「無理」だ。時々、親たちは自分の子が同性愛者であることを分かるが、

¹Masami Tamagawa (2016) Same-Sex Marriage in Japan, *Journal of GLBT Family Studies*, 12:2, 160-187, DOI: 10.1080/1550428X.2015.1016252

² Bardsley, Jan, and Laura Miller. *Manners and Mischief: Gender, Power, and Etiquette in Japan*. University of California Press, 2011.

³ Masami Tamagawa, "Same Sex Marriage in Japan."

⁴ 同上

⁵ Bardsley, Jan, and Laura Miller. *Manners and Mischief*.

⁶ Masami Tamagawa, "Same Sex Marriage in Japan."

子がその姿を「そと」に出さないように生きるなら、その姿を無視する。しかし、無視できない場合は別の話だ。ある実話で、エイズウイルスの病気で同性愛者のことがばれてしまった男子は父に「自殺しろ」と言わされたそうだ。「そと」からも「うち」からも差別を受けるし、多くの同性愛者が家族や同僚にカミングアウトをしないので、たくさんの日本人はマイノリティの友達がいないと思ってしまう。同性愛者は結婚できず、独身として子供を養うのがとても難しいし、自分の家族を作れないので寂しそうで「見えない」状態で存在している。結果として、異性愛者より同性愛者の自殺発生率が多い⁷。

また欧米と違って、日本の大学であまり同性愛者について研究所や授業がない。なので、多くの70年代と80年代のLGBT社会運動の書類など何十年も日本語に翻訳されず、海外の同性愛者のアイデアは日本に入ることができなかった。その上、エイズウイルス過は同性愛者の権利の問題ではなく、アメリカからの病気として知られ、国際的な問題となった。そして、ある日本人の同性愛者は欧米に嫌な感じを持つため、日本が欧米化をしないようにLGBT社会運動を断る。つまり、この人たちは日本が日本なりに同性愛者の権利を認めることを信じる。このように、今の中年の同性愛者はどのように老年へ進み、どのように自分のパートナーを法律的に守るべきかと模索しているらしい⁸。

3. 「特別」と「普通」養子縁組の違いと同性カップルとの関係

日本には、養子縁組は二つのタイプに分かれている。以外にも、アメリカ人である私にとって、「特別」養子縁組とは普通な感じを持っている。子を養うのは子供（15歳未満）の福祉のために、夫婦（そのうちの一人は25歳以上）は自分の家族にも、同じ戸籍にも入れることだ。子供の血縁関係にある父母の同意が必要だが、が子供を育てられない場合や虐待する場合

⁷ 同上

⁸ 同上

は除く。大体縁組により、子供の父母血縁親族との関係を終了し、新たな家族と離縁することができない（また、虐待など除く）。戸籍には、養われた子が実子と同じく記載される。この手順には、6ヶ月で試験養育期間と家庭裁判所による審判が必要である⁹。とはいっても、実に特別養子縁組は日本の全養子縁組数の1%未満である。上に述べた通り、独身として子供を養うのが難しいので、子供を養うことができる同性愛者はとても少ない¹⁰。

「普通」養子縁組の目的は子供の福祉ではなく、「家」の存続だ。結婚していても、いていなくても、成人以上ならできる（養子の年齢が制限ではないが、未成年者には親権者の同意が必要だ）¹¹。家庭裁判所はない¹²ので、いつでも契約を申し立てることができる。結縁親族の父母と関係を存続でき、戸籍に、「養子」と「養女」と記載される¹³。必ず年上の当事者は年下の当事者を養い、名字をあげる。婚姻と同じように、養子が税金や相続関連、公共サービスなどの権利を得るが、婚姻よりその益は弱い¹⁴。このため、多くの同性愛者はこの制度を使う。実際に、事例証拠により普通養子縁組を使ったことがある同性愛者の数は多いが、申し立てる当事者のセクシュアリティを聞かないと本当の統計は不明である¹⁵。

4. どうして日本人の同性カップルはこの方法を使うかと養子縁組の是非

⁹ “特別養子縁組と普通養子縁組の比較。” 環の会 Motherly Network, 15 Apr. 2020, <https://wa-no-kai.jp/engumi-setumei.html>.

¹⁰ Masami Tamagawa, “Same Sex Marriage in Japan.”

¹¹ “特別養子縁組と普通養子縁組の比較.”

¹² Masami Tamagawa, “Same Sex Marriage in Japan.”

¹³ “特別養子縁組と普通養子縁組の比較.”

¹⁴ 橋本 ウサ太郎. “パートナーシップじゃない！彼と養子縁組をするメリットとデメリット.” リザライマガジン, Resally Magazine, 10 Dec. 2020, <https://www.resally.jp/magazine/advantages-and-disadvantages-of-adoption/>.

¹⁵ Masami Tamagawa, “Same Sex Marriage in Japan.”

婚姻と同等の権利を得るために、この選択肢しか選べないと思っている同性愛者は多い¹⁶。確かに、パートナーを養ったら、たくさんの益を得る。例えば、相続権や遺族年金、生命保険、公共料金の家族割等の適応、ローンの共同名義、病院での面会、扶養家族として所得税の控除だ¹⁷。その上、同じ名を乗っているので、一緒に住む家を探しやすくなる。老人ホームに昼間、パートナーが保証人になれるし、緊急時に医療行為の同意等ができる¹⁸。

しかし、悪い点はたくさんある。様々な人によって、このような養子縁組の関係が不自然で、分かってくれる人はあまりいない。その上、養子縁組悪用を疑われるか¹⁹、パートナーの親族から「養子縁組は無効だ」と言いうかもしれない²⁰。一方養子縁組に進めば、パートナーは外国人である場合、在留資格を与えることができない。そして、婚姻ではないため貞操義務がないので、浮気による慰謝料請求権はない²¹。パートナーと離縁しなくとも、婚姻費用の分担や財産分与請求権できない。最後に、一番重要なリスクは民法736条による元家族が結婚できない。まだ同性カップルに関係はあるかどうか不明である。つまり、いつか日本で同性結婚が法律になっても、養子縁組の関係を持つ同性カップルは結婚できないかもしれない²²。

5. 他の選択肢や進む道はあるか

フェミニストによると、様々な弱点を持っている戸籍制度を変わるべきか消すべきだと述べる。例えば、戸籍を悪用すれば、誰でも他の人の戸籍にある基本的な情報を見ることができ、

¹⁶ 同上

¹⁷ 橋本 ウサ太郎.“パートナーシップじゃない！”

¹⁸ “同性カップルの養子縁組についてのメリット・デメリット.” 東京都北区十条「もめない相続」なら 吉村行政書士事務所, 吉村行政書士事務所, 2021, <https://www.gyosyo.jp/dousei-couple/youshi-engumi>.

¹⁹ 橋本 ウサ太郎.“パートナーシップじゃない！”

²⁰ “同性カップルの養子縁組についてのメリット・デメリット.”

²¹ 橋本 ウサ太郎.“パートナーシップじゃない！”

²² “同性カップルの養子縁組についてのメリット・デメリット.”

その情報によって差別する。あるフェミニスト概念に、日本は集団主義社会から個人主義社会に変わるべきだ。個人主義社会で、異性愛者でも同性愛者でも自分の家族を選べる²³。

他の選択肢は結婚契約を作り、公正証書にすることで日本政府に認められることだ²⁴。結婚はどうしても必要である場合、性別が違う同性愛者や友達と結婚できる。一方、自分のジェンダーが気にならないなら、性転換手術を受け、戸籍に性別を変えることができる。応募時に20歳以上で独身であること、子供がないこと、生殖腺の機能がないこと、手術により性別に応じた臓器の提供を受けたことが条件となる²⁵。

最後に、2015年から、渋谷区と世田谷区に同性パートナーシップを認めている。その以来、50以上の自治体は900組くらいのカップルのパートナーシップを公認する制度を導入している。渋谷区のタイプでは、公正証書が必要だが、一方、世田谷区のタイプではカップルがせんせいする。しかし、両方のタイプにも法律効力はないため、まだ困っている同性愛者がいる²⁶。2022年の終わりまで、このパートナーシップ制度は東京内に認められる予定があるが、まだ法律効力を与えるかどうか不明だ²⁷。

6.まとめと意見

日本と同性愛者は昔からとても複雑な関係がある。時に同姓恋愛は認められたことがあったが、現在にエンターテインメントでない場合、無視されることが多い。同性愛者の研究所はあまりないので、絵画から色々で大切な情報を日本語に翻訳されず、たくさん的人が悩んでい

²³ Masami Tamagawa, "Same Sex Marriage in Japan."

²⁴ 同上

²⁵ Bardsley, Jan, and Laura Miller. *Manners and Mischief*.

²⁶ 永易至文.“全国に広がる「同性パートナーシップ」とは制度概要やできる・できないことを解説.”相続会議, 朝日新聞, 27 June 2020, <https://souzoku.asahi.com/article/13485873>.

²⁷ Reynolds, Isabel. “Tokyo to Introduce a Same-Sex Partner System.” The Japan Times, 8 Dec. 2021, <https://www.japantimes.co.jp/news/2021/12/07/national/yuriko-koike-tokyo-lgbt/?fbclid=IwAR3dTwhWlzuNJ28iankbssnsRoocSTtDo-S7e2AhOuOOv5BqJNdrNzChh6l>.

る。その上、日本の戸籍や法律、社会的常識のため、一步進んでも不満点がある。残念ながら、日本の同性の権利はまだ遠い将来にあるみたいだ。

参考文献

Bardsley, Jan, and Laura Miller. *Manners and Mischief: Gender, Power, and Etiquette in Japan*. University of California Press, 2011.

Masami Tamagawa (2016) Same-Sex Marriage in Japan, Journal of GLBT Family Studies, 12:2, 160-187, DOI: 10.1080/1550428X.2015.1016252

Reynolds, Isabel. "Tokyo to Introduce a Same-Sex Partner System." *The Japan Times*, 8 Dec. 2021, <https://www.japantimes.co.jp/news/2021/12/07/national/yuriko-koike-tokyo-lgbt/?fbclid=IwAR3dTwhWlzuNJ28iankbssnsRoocSTtDo-S7e2AhOuOOv5BqJNdrNzChh6I>.

“同性カップルの養子縁組についてのメリット・デメリット.” 東京都北区十条「もめない相続」なら 吉村行政書士事務所, 吉村行政書士事務所, 2021, <https://www.gyosyo.jp/dousei-couple/youshi-engumi>.

橋本 ウサ太郎. “パートナーシップじゃない！彼と養子縁組をするメリットとデメリット.” リザライマガジン, Resally Magazine, 10 Dec. 2020, <https://www.resally.jp/magazine/advantages-and-disadvantages-of-adoption/>.

永易 至文. “全国に広がる「同性パートナーシップ」とは制度概要やできる・できないことを解説.” 相続会議, 朝日新聞, 27 June 2020, <https://souzoku.asahi.com/article/13485873>.

“特別養子縁組と普通養子縁組の比較.” 環の会 Motherly Network, 15 Apr. 2020, <https://wa-no-kai.jp/engumi-setumei.html>.